

# 「遊休農地の発生防止・解消に向けた取り組み」 (奈良県御所市農業委員会)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

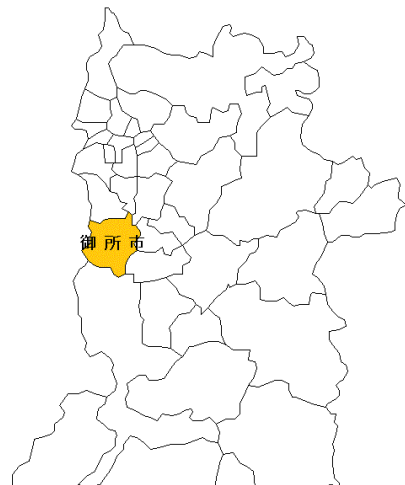
新規参入の  
促進

その他(農業  
委員会の体  
制強化等)

## 【農業委員会の体制】(平成30年6月2日移行)

○新体制: 農業委員8名、農地利用最適化推進委員9名

○旧体制: 農業委員17名



## 1 地区の特徴・状況、課題

○奈良県の北西部に位置する御所市は、奈良盆地の南西端に位置し、面積は60.58km<sup>2</sup>、現在の人口は約26,000人(平成30年10月31日現在)。農地面積は、1,357ha、農家戸数は1,376戸。担い手不足等により、遊休農地が年々増加傾向にある。

○特に山間地では、大型農業用機械の使用が困難であり、またイノシシやアライグマ等の鳥獣被害が多発している。

○柿・ぶどうなどの果樹やお米が多く栽培されている。

## 2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○御所市で開催しているイベント(食と農のフェスタ)にて御所市農業委員会が育てたハボタンを配布し、遊休農地の発生防止・解消の啓発活動を行っている。

○耕作が困難となった農地は、農地中間管理機構の利用を促進している。千代酒造株式会社では、6haの利用集積を目標に、平成30年度において2.7haの利用集積が行われた。

○平成31年度より、遊休農地解消のために景観作物(コスモス)を植える予定。